

## 越後 極楽尾根～越後駒ヶ岳往復

棚橋

【日時】 2010年11月20日(土)～21日(日)

【メンバー】L佐貴、棚橋

今シーズンの冬山始め。年末年始の山行まで1ヶ月強に迫り、ルートの偵察も兼ねて極楽尾根から越後駒を目指した。

11月20日 晴れ

車で越後三山森林公園まで入ることができたので、越後駒の山頂を踏むことは何とか叶いそう。しかし積雪は上部の沢筋に確認できる程度で、その他の様子は10月に訪れた時とそれほど変わりはない。久々の雪山装備（先週は藪山装備...）に、3リットルの水を加えて歩き出す。

十二平からの登山道は急登である上、木の根っ子や岩が大量の落ち葉に覆われていて、足裏感覚のトレーニングにはちょうど良い。標高1050mを越えた辺りから雪が現れだし、1250mより上は薄いながらも殆ど雪を踏んで歩けるようになる。グシガハナの手前では「こんなに藪ぼかったっけ？」と首を捻る有り様だったが、灌木に積もった雪が道を左右、上方共狭くさせているのだろう。天気が良くて暑かったので合羽は仕舞い放しにしておき、雪まみれにされてしまった。

グシガハナからは大分開け、駒ヶ岳や北沢の源頭がよく眺められる。アイゼンを付けようかという声も上がったが、危険な箇所も殆ど無いので歩行練習を続けることにする。中ノ岳への分岐まで来ると、積雪量は更に増した感じだ。40cm程度はあろうか。来るべき更なる雪を纏った周辺や気になる支尾根に思いを馳せながら、越後駒へと向かう。山頂ではトレース一つない雪景色とお地藏様が我々を迎えてくれた。

しばし景色を堪能した後、我々を待つ駒ノ小屋を目指すことにする。一気に下りられるかなと思って歩き出したが、途中で足裏センサーが



藪地帯を抜けた

働いたのでアイゼンを着ける。おかげで安心して小屋へと達することができた。天気が良いので、大湯か銀山平からのパーティが居るはずと思っていたが、百草平方面に目を凝らしてもそれらしい人影どころかトレスすら見つけれなかった。

小屋では、大量に持ち上げた酒とつまみで空腹を満たすと睡魔に襲われ、16時には眠ってしまった。



11月21日 晴れ

十分過ぎる睡眠で、快調な朝を迎える。結局、小屋は貸切だった。

アイゼンを付けて登り返すが、予想していたほどの冷え込みは無かったようだった。稜線に出ても、今日はアイゼン歩行の確認のため、しばらく履き続ける。

極楽尾根からは秋に登った祓川の大滝を確認でき、それなら幣ノ滝はどの辺りかなど、いろいろ楽

山頂から小屋へ

しませて頂いた。また積雪は昨日に比べて、大分解けてしまったようだ。アイゼンを外した後は滑らないように、細心の注意を払いながら下る。これもまたトレーニング。大量の落ち葉に覆われた、急な登山道を滑らずに降りることは結構神経を使う。

10時前には十二平まで降りられたので、余裕を持ってマキグラノツルネの偵察が行えた。それなりに成果はあったと思うが、訪れるのは何時になるか。越後三山森林公園のトイレも昨日までは使用可能であったが、今日はすっかり冬支度されていた。下界では冬の準備が整いつつあるが、雪に覆われたここに訪れるのは何時になるのだろうか。とても待ち遠しい。

先週の五剣谷岳に続き、天気が良かったのにも関わらず、誰にも会わない静かな山行だった。おかげさまで冬山シーズンに向けて、程好い体慣らしが行えた。

### 【行程】

- 11/20 越後三山森林公園(6:40)～十二平(7:30/45)～グシガハナ(12:28/39)～中ノ岳  
分岐地点(13:21)～越後駒ヶ岳(12:42/47)～駒ノ小屋C1(14:06)
- 11/21 C1(6:12)～中ノ岳分岐地点(6:40)～グシガハナ(7:13/23)～十二平(9:50/58)  
～マキグラノツルネ偵察(10:19/11:00)～越後三山森林公園(11:25)

【地図】八海山